

歯周治療学

[講義] 第1学年 後期 必修 1単位

《担当者名》 歯学部教授 / 長澤 敏行 歯学部特任教授 / 古市 保志
 歯学部准教授 / 門 貴司 歯学部講師 / 加藤 幸紀
 歯学部助教 / 清水 伸太郎 歯学部助教 / 杉山 のどか

【概要】

歯を支える組織である歯周組織の病気である歯周病は、歯科の2大疾患の1つといわれ、歯を失う原因として齶蝕とともにきわめて重要である。その予防と治療は、歯科衛生士の仕事として最も重要視されているのが現状である。そこで本教科では、まず歯周組織について知識を深めるとともに歯周病について理解を深め、これらの知識を基盤として歯周病の治療法について学ぶ。

【学修目標】

歯周組織について知識を深めるとともに歯周病について理解を深め、これらの知識を基盤として歯周病の治療法について理解を深めることを目標とする。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	歯周組織の構造と機能	歯周組織の病気である歯周病がどのような病気であるかを知るために、まず歯周組織とはどのような特徴を持った組織であるかを学ぶ。 歯肉、歯根膜、セメント質、歯槽骨の構造、各部の名称、組織学について学ぶ。 同時にこれらの組織の持つ機能について学ぶ。 歯と歯周組織の接合付着様式についても理解を深める。	長澤 敏行
2	歯周病の分類とインプラント周囲疾患	歯周病とはどのような病気かをくわしく知るために、歯周病がどのように発病し進行するかを学ぶ。 歯肉炎、歯周炎、咬合性外傷について、その特徴を学ぶ。	長澤 敏行
3	歯周病の原因 宿主因子 細菌因子 環境因子	歯周病の原因について学ぶ。 炎症性因子、外傷性因子、全身性因子について区分して理解を深める。 さらにこれらの原因と病変の進行との関係性を学ぶ。	長澤 敏行
4	ペリオドンタルメディシン	糖尿病、誤嚥性肺炎、血管障害、早産・低体重児出産、骨粗しょう症、肥満、関節リウマチと歯周病の関連を学ぶ。	長澤 敏行
5	歯周病の診査と診断	歯周病の診査と診断について学ぶ。とくに歯周組織の破損の程度の診査と原因となる因子の診査について学ぶ。	清水 伸太郎
6	歯周治療の進め方 治療計画	歯周病の治療を行うにあたっての基本的考え方および治療の進め方について学ぶ。 診査・診断と予後診査により、治療の順序を決める方法を学ぶ。	長澤 敏行
7	歯周基本治療Ⅰ モチベーション（動機づけ）	歯周基本治療は歯周病の原因を可能な限り除去する治療である。 歯周治療は患者と歯科医との間の協力がうまくいく場合に成功する。すなわち患者自身が歯周組織の健康維持に関心を持ち、治療の必要性を理解するよう動機づける必要がある。この動機づけを成功させるには患者と歯科医師および歯科衛生士との信頼関係が重要になる。本項ではモチベーションのための情報伝達法について理解する。	長澤 敏行
8	歯周基本治療 口腔清掃指導法	患者によるプラークコントロールは歯周疾患の予防と治療の鍵となる重要項目である。	杉山 のどか

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	1) プラーク染色剤 2) ブラッシング法 3) 歯間部清掃法 4) 特殊な清掃用具	歯面上・歯肉上のプラークを染色剤で染め患者に示すことは指導上極めて有効である。 歯ブラシはプラークの除去に最も重要な用具であるが、毛先が完全に到達する部位は頬側、舌側、咬合面である。 歯肉炎、歯周炎は歯間部から発生する。歯ブラシだけでなく、歯間部の清掃ができる用具を用いなければ Plaque free にはならない。 以上のことを根本に Plaque free の状態に到達するための清掃法を学ぶ。	
9) 10	歯周基本治療 スケーリング、ルートプレーニング とその他の口腔清掃を促進する口腔環境づくり。 1. 歯肉縁上歯石除去 2. 病原性刺激因子の除去 3. 歯肉縁下プラークおよび歯石の除去 4. ルートプレーニング	モチベーション、口腔清掃指導の効果がみられたら歯科医師および歯科衛生士による、口腔清掃がよく出来るような環境づくりと歯肉縁下のプラークコントロールの実施となる。 歯肉縁上縁下のスケーリングとルートプレーニングは歯科医師および歯科衛生士が熟練せねばならない基本的技術であるから十分な理解を要する。	清水 伸太郎
11	歯周基本治療 咬合性外傷とその治療 1) 咬合性外傷 2) 外傷性咬合の診査 3) 咬合調整 4) 固定 5) 限局矯正 6) 習癖治療 7) 薬物療法	咬合性外傷は異常咬合力により生じる。歯の動揺度の増加をきたす歯根膜付近の構造の微視的变化であるが、歯肉炎も歯周炎も発生させないことを理解する。 咬合性外傷は既に生じている歯周炎を進行させる可能性のあることを理解する。 咬合調整の目的を理解する。 暫間固定は歯周治療前あるいは治療中に高度の動揺をきたしている歯に用い、治療により発生する外傷を軽減したり、永久固定で歯が保存できるかどうか等の診断のために行うことを理解する。 歯周炎に罹病した結果起こった不正咬合は簡単な矯正治療で再配列できる。本項では、このような場合の Miner Tooth Movement (MTM) について学ぶ。 口呼吸、ブラキシズム、舌習癖の治療 薬物の局所応用と全身投与を学ぶ	門 貴司
12) 13	歯周外科 1. 歯周外科の目的と適応 2. 組織付着療法 3. 切除療法 4. 組織再生療法 5. 歯周形成手術 6. インプラント周囲炎に対する外科手術 7. 根分岐部病変の治療 8. 歯周 - 歯内病変の治療	歯周外科治療の目的と分類を学ぶ。 歯周外科治療後の治癒形態を学ぶ。 歯周外科治療に用いる器材を学ぶ。 種々の歯周外科治療を学ぶ。 根分岐部病変の治療を学ぶ。 歯周 歯内病変の治療を学ぶ。	門 貴司
14	口腔機能回復治療	固定式補綴装置 可撤式補綴装置 インプラント治療 骨縁上組織付着 生物学的幅径	加藤 幸紀
15	メンテナンス・サポータティブ ペリオドンタルセラピー (SPT)	歯周治療で得られた健康な歯周組織の状態を維持するために、術者と患者とが協力して行なう重要なステップであり、歯を歯周疾患で失わないためにはもっと	古市 保志

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	症例供覧	も大切な処置であることを十分に理解する。 診療・診断から始まり長期のメンテナンス・SPT まで経過している症例を供覧し、歯周治療について総 合的に理解する。	

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験（筆記試験） 100%

【教科書】

最新歯科衛生士教本「歯周疾患」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版

【参考書】

最新歯科衛生士教本「歯科機器」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版

【備考】

確認テストにおいて、それまでの講義で得られた知識の確認を行う。

【学修の準備】

毎回の講義毎に、講義内容に該当する範囲を教科書で予習しておくこと。（30分）

確認テストは、それまでの講義内容全般について出題されるので、毎回の復習をしっかりと行っておくこと。（30分）

【実務経験】

長澤 敏行（歯科医師）、古市 保志（歯科医師）、門 貴司（歯科医師）、加藤 幸紀（歯科医師）、清水 伸太郎（歯科医師）、杉山 のどか（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

歯周治療学は、歯周疾患の治療を通じて口腔機能の回復の意義と全身の健康に寄与する科目であり、歯科医師と歯科衛生による連携治療であることを理解する。学術的根拠に加え、実務経験のある歯科医師による講義により、歯周治療学に関する優れた教育成果をあげることが期待できる教育内容である。